

第29回大会の予選審査を経て、全部門に共通して感じたこと

昨年度に比べて、どの部門においても分かり易く書くという点ではかなり質が向上したという印象を受けました。過去の入賞作品の事例をプロコンサイトで容易に参照できるようになって、ようやくその効果が出始めたのではないかと想像しています。ただし、内容の説明に関してはチームごとのスケジュールに依存するというのもあって、レベルは様々でした。

課題部門に関して

課題「ICTを活用した地域活性化」の全作品を読んで感じたことは、このテーマの難しさでした。新しいテーマであるからと云うだけでなく、「地域活性化という言葉の解釈が多様」であることが主な理由かと感じています。たとえば、「地域」の捉え方は「XX地方、XX県、XX市、XX町、・・・」などと多様であり、対象範囲を広く括るか／狭く括るかによって、開発するシステムの解釈が変わることがあります。また、「ICTの活用」の概念をどう捉えるかについても、「システム開発者の立場／システム活用者の立場／システム運用・管理者の立場」などによって異なるということです。

応募資料の評価は「何を如何に作成しようとしているのか」に関して分かり易く書かれているか否かで分かれたように思います。審査では「システム利用者の思いに関する事前調査が良くできているか」、「実現に必要な理論とシステム構築法について具体的に検討しているか」などに注目しました。また、今回の課題の特殊性から「出来上がったシステムを誰が運用・管理するのか」の観点にも注目しました。そして各チームに送ったコメントでは「課題との整合性」、「分かりやすさ」、「使いやすさ」に期待を込めて少し厳しめに記してあります。

自由部門に関して

応募資料はいずれも「ファイルの内容に関する注意事項」の①から⑦に対応していたのですが、「何を如何に作成しようとしているのか」の観点での説明が不十分である作品が半数近く見受けられたことは残念です。言い換えれば、残りの半数はアイデアも作品の展開も興味深い内容であったということになります。課題で考えたアイデアを自由に展開したと思われる作品も少なくなかったと思います。

予選の作品は開発スケジュールの初期段階に作成されたものですから、問題分析とシステム構築、情報技術の適用がこれからどのように実現するのかについてはまだ想像できません。各チームに送ったコメントは、これからの作業に期待を込めて少し厳しめに記してあります。

本選では、更に有用性や完成度の高いシステムへと変身した作品に出会えることを楽しみにしています。

競技部門に関して

例年と比べて応募書類の質が向上したという印象を受けました。たとえば、「開発に関する予定・工数、実現方法、独創的など」の説明は読みやすく、応募者の意図が伝わってきました。ほんの少しだけ「補足説明が欲しい」と感じられるような書類も含まれてはいましたが、いずれも最低限の条件は満たしていました。過年度受賞チームの公開資料を学習できた効果があったと感じました。

情報技術をどのように活用して戦略を立てるのか、本選が楽しみです。

最後にひとこと

本選まで4ヶ月！

皆さんの素晴らしい作品にあえるのを楽しみにしております。